Ⅰ　総社市農業を取り巻く現状

市章

鬼の城から総社市街地を望む

本市の農業は，温暖な気候と一級河川である高梁川の豊かな水という恵まれた気候風土のもと，水稲を中心に野菜・果樹などの栽培のほか，酪農，養鶏を取り入れた農業が発展してきました。特に桃やぶどう（マスカット・オブ・アレキサンドリア，ピオーネ）といった果樹栽培と，施設野菜（なす，セルリー，メロン）では県下有数の産地が形成されてきました。

▲春の備中国分寺

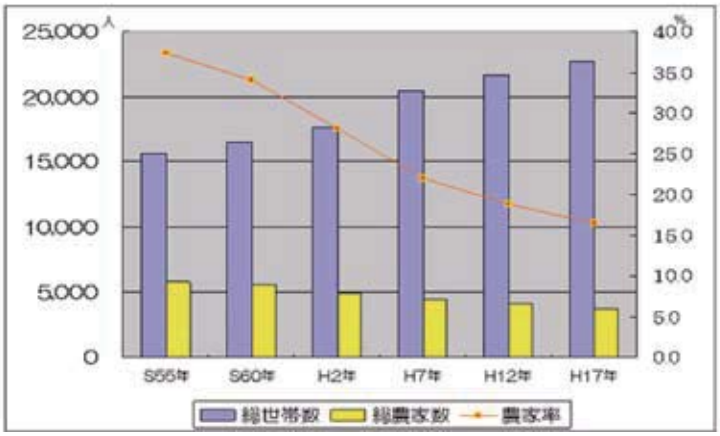
▲麦の収穫

現在も，水稲を中心に麦，大豆，果樹，野菜，畜産など幅広い作目の経営がなされており，都市近郊という優位性を活かし，県内はもとより関東・関西・九州方面へも農畜産物が流通しています。

しかし,近年の農業を取り巻く状況は厳しく,経済のグローバル化に伴う輸入農産物との競争の激化により,稲作を中心に農業産出額は伸び悩んでいます。

水稲専業農家の兼業化及び農業従事者の高齢化･担い手の減少に伴い,昭和３５年に全体の５０％を占めていた第１次産業の人口も，現在では，１０％を下回る状況です。

総世帯数及び総農家数の推移



資料：２００５年農林業センサス

かつて本市の基幹産業として大きな比重を占めていた農業は，昭和４０年代から隣接する倉敷市における工業団地の立地を契機として工業化・都市化したことにより農家の兼業化が進み，さらに近年では農業の担い手不足が深刻化しています。

平成１７年個別農産物作付（栽培）農家戸数順位　　単位：戸

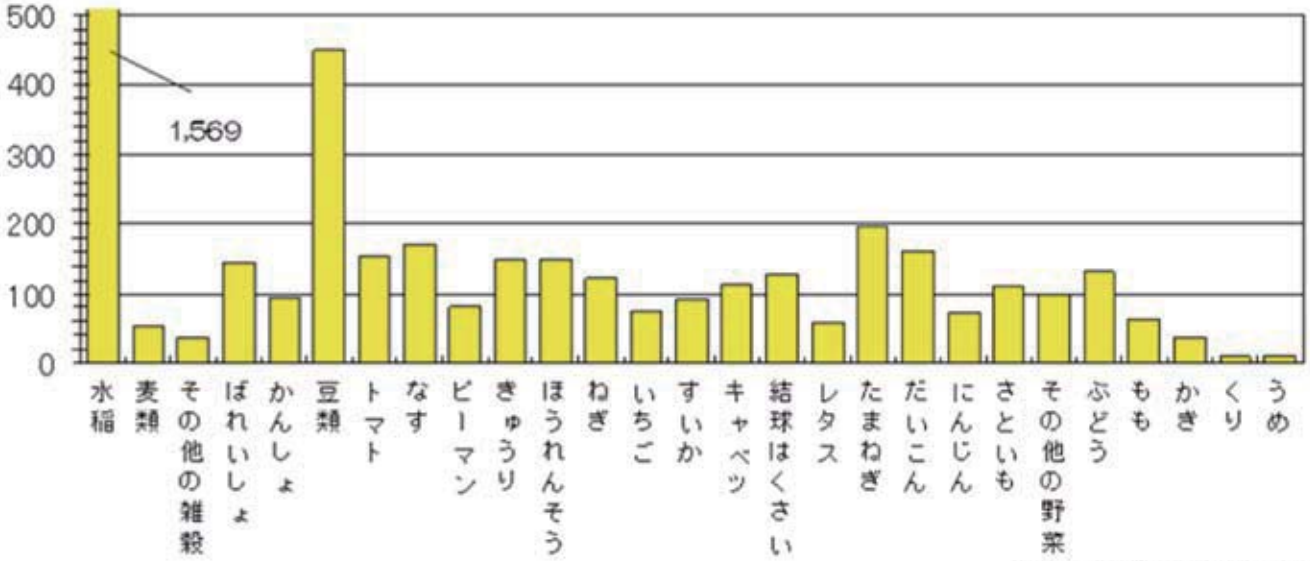
第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
農産物名	農家戸数	農産物名	農家戸数	農産物名	農家戸数	農産物名	農家戸数	農産物名	農家戸数
水稲	1,569	豆類	449	たまねぎ	197	なす	170	だいこん	159

※自給的農家を除く

資料：２００５年農林業センサス

販売目的の作物別作付（栽培）農家数（販売農家）

単位：戸
データは平成１７年のもの



資料：２００５年農林業センサス

▲中山間地域

また，中山間地域である昭和地区などを中心に，農業従事者の高齢化及び減少によって，農業後継者に継承されない，または担い手に集積されない遊休農地が増加傾向にあります。

今後，これらの諸問題を解消することが大きな課題となっており，農家も農業経営の大きな軌道修正を迫られています。

Ⅱ　総社市農業が目指すべき方向

基本理念と基本目標

本市は，岡山県南部に位置し，市の中央部を岡山県の三大河川である高梁川が南北に貫流し，また吉備平野が東西に広がり，その吉備平野に市街地が帯状に連なり，それを取り囲むように農村集落が形成されています。

その恵まれた立地条件を生かし，認定農業者，集落営農組織，農業生産法人などの先進的な農業に取組む経営体が数多く存在します。

一方，担い手の高齢化をはじめとした様々な課題への対応や，生産者と消費者との交流の推進などが求められています。

このような本市農業の特性や課題などを踏まえ，市民・生産者・消費者・農業関係団体・流通や加工事業者・行政などの連携・連動のもと，それぞれが主体的に農業や農村のもたらす多彩な恵みを活かした活力ある農業づくりに取り組むことを基本理念とし，本市農業が目指す基本目標を次の３項目とします。

▲天敵を利用したイチゴの栽培

▲地産地消食材取扱店

【 基本理念 】

「総社の農業を元気に！！　連携と連動，互いに力を合わせ活力のある農業づくり」

【 基本目標 】

１　次の世代へ！躍進する農業づくり

２　親しみと理解のある食と農の関係づくり

３　活力ある農村づくり

ビジョンの策定に当たって

1　趣旨

近年，食料，農業及び農村をめぐる情勢は，農業従事者の減少や高齢化に伴う農業生産基盤の脆弱化の進行による食料自給率の低下や耕作放棄地の増加，自然環境の保全といった農業，農村の持つ多面的な機能の低下などが懸念されるとともに，食の安全性の確保，循環型社会の構築など全国的に多くの課題を抱えています。

▲ナスの栽培

このような情勢のなか，国においては「食料・農業・農村基本法」の理念を具体化した「食料・農業・農村基本計画」を策定し，望ましい農業構造の確立に向けた担い手の確保・育成や食料自給率の向上などの施策を実施していくこととしています。

▲桃の受粉作業

また，岡山県においては，「新おかやま夢づくりプラン」（県事業全般の施策），「２１おかやま農林水産プラン」（農林水産部），「普及指導計画」（農業普及指導センター）により，各地域の特性を生かした農畜産物のブランド化や特産品づくりなどの施策を展開しています。

このような動向，社会情勢を踏まえ，市民や農業者の多様なニーズに応えるため，生産，流通，加工，消費，行政などの各分野が連携を深め，互いに力を合わせ連動し，食料，農業及び農村に関する施策を総合的に推進することにより，一人でも多くの農業者を増やし，総社市農業が元気で，魅力のあるものになることを目指します。

▲マスカットの収穫

２　ビジョンの位置付け

このビジョンは，農産物の生産や担い手の育成等，いわゆる農業の振興だけでなく，市民への安全な食の供給や市民の共有財産としての農村の発展も視野に入れたものです。

「総社市総合計画」における食料，農業及び農村に関する施策の具現化を図るための有効な方策を定めるとともに，他分野の施策との連携を図りながら，具体的な取組を効果的に進めていくうえでの指針とするものです。

３　会議の進行

総社新農業会議は，基本理念及び基本目標に基づき，より具体的で実践的な施策を定めるための議論を効率的に行うため，次の３部会に分かれてビジョンの具体案を検討しました。

▲総社新農業会議全体会議

▲生産者部会

①生産者部会･･･生産者の立場から，多様な担い手の育成やマーケティングについての施策を検討し，次世代に継承していける戦略的な農業について議論する。

②消費者部会･･･消費者の立場から，規格外農産物の有効活用や食農教育の推進などについての施策を検討し，親しみと理解のある食と農の関係づくりについて議論する。

▲消費者部会

▲地域活性化部会

③地域活性化部会･･･地域住民の立場から，地産地消の推進ややりがい・喜びのある農業の促進についての施策を検討し，活力ある農村づくりについて議論する。